

< 投資の裏側 >

(INSIDE-OUT=インサイドアウト、隅から隅まで)

ヘッジファンドについて知る ～役に立つファイナンス理論⑥～

「投資INSIDE-OUT」～役に立つファイナンス理論⑥～では、ヘッジファンドの特徴について、伝統的資産との比較を通じて見ていきます。



◆ヘッジファンドの戦略とは

2018年は株式市場が大きく変動しましたが、その背景にはヘッジファンドの動きが関わっていたと言われています。そこで今回はヘッジファンドについて見ていきます。

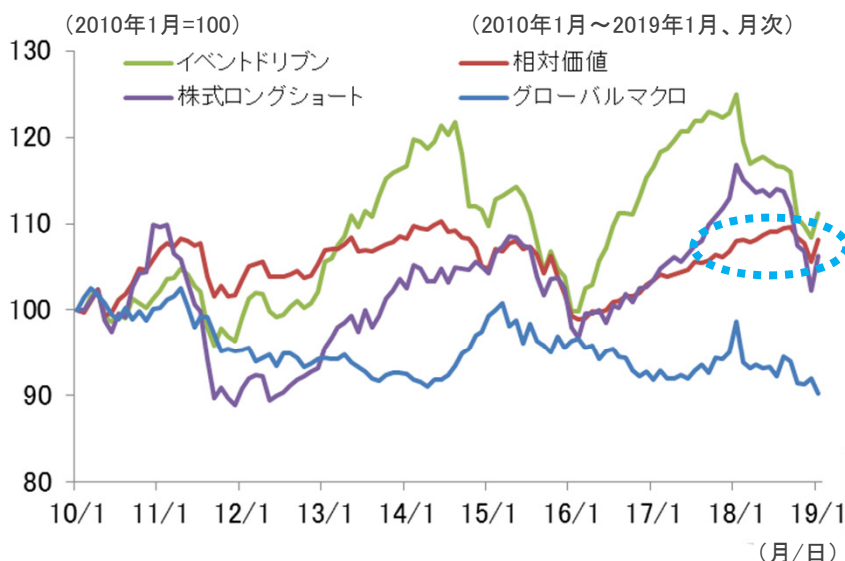
ヘッジファンド(Hedge Fund)とは、**様々な取引手法を駆使して、市場全体が上がっても下がっても収益を出すこと(絶対収益)を目的としたファンド**のことです。私募形式でコスト(信託報酬等)が高めとなるファンドが多いことも特徴の一つです(公募形式での取扱いも一部あり)。

一般的な伝統的資産(国内外の株式、債券)の運用はロング(買い持ち)主体なのに対し、ヘッジファンドはどのような局面下でも収益を目指すファンドのため、ロングに加えてショート(売り持ち)のポジションも多く含みます。ファンドの主な戦略は「市場全体の動向(β)に依存する戦略」と「個別証券の動向(α)に依存する戦略」に大別されます。

主な戦略の概要

投資戦略<市場全体の動向(β)に依存>		投資戦略<個別証券の動向(α)に依存>	
グローバルマクロ	世界経済見通しに基づいた証券投資で収益を獲得	イベントドリブン	企業の合併や買収、破綻といったイベントで収益を獲得
株式ロングショート	株式のロング、ショートで収益を獲得	相対価値	個別証券間の相対価格のゆがみで収益を獲得

戦略別パフォーマンスの推移



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

一概にヘッジファンドと言っても、**ファンドごとの取る戦略によってパフォーマンスは千差万別**です。2018年は「**相対価値**」戦略が比較的、底堅いパフォーマンスを見せました。



分散投資として伝統的資産のほかにヘッジファンドを組入れる場合は、ファンドの戦略を良く理解した上で、選定をすることが重要です。(青龍)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。